

新日美主催 第3回クロッキー・デッサン会開催 事業部委員 増野 喬

【第三報】

第三回クロッキー・デッサン会を平成三十二年二月六日に実施しました。今回は一七名の参加で前回より四名増となりました。今回も張委員を講師に初心者へのアドバイスや、描き方の理論的な解説があり、今後の制作に大いに参考になると思われま。

「ここでクロッキーとデッサンについて武蔵野美大の学習書を引用し考えてみたいと思います。」

まずクロッキーですが「対象や特徴をすばやく端的に掴むのがクロッキーである」とあり、又「クロッキーはデッサンと違った性格のもので、決して粗雑、乱暴なデッサンではなく、対象のフォルムの根本にある造形性の模索にある」と「造形性を表面描写にまどわされずにいかに端的に表すかである」とあります。「十分な時間をかけて対象を研究すると対象の印象や特徴を掴めないということも起こり得る」ともあります。従って五分クロッキーは素早く特徴を掴むのに最適と言えます。小鳥や犬、ネコ、人など動くものをクロッキーでとらえることが出来ます。

は素描、下絵で鉛筆や、コンテ、木炭などで描くこと」が一般的な考え方ですが、水彩、油彩などで行う場合もあります。セザンヌは油彩によるデッサンを行っています。又「初期のデッサンは修練であり、反復実習を行いその過程において正しい制作態度を体得する」とあり、又「初期のデッサンは模倣から始まり後期のデッサンは独立した作品として価値をもってくる」とあります。デッサンを重ねることにより自己表現が高まると言えます。

ダヴィンチ、ミケランジェロのデッサンはそれにあたると言えるでしょう。いかに高邁な思想もあふれでる感動もそれを表現する技術がなければ人々に伝達することが出来ないことあります。デッサンを重ねることにより表現力や技術力を獲得出来るのではないのでしょうか。

「デッサンを通じて絵を描く忍耐力と苦悩に打ち勝つ強い生き方を悟ることも可能」とあります。改めてデッサンを重ねることの大事さを自覚した次第です。

最後になりましたが張委員、永野、篠委員他ご協力いただきました方々にお礼申し上げます。次回は令和二年二月に予定しております。

第四二回新日美展京都巡回展を終えて

京都支部 飯村 君江



展示を終えた会場風景

桜の花だよりもきかれる候となり、華やかな季節を迎える中、京都府京都文化博物館において三月二〇日から二四日まで、巡回展が開催されました。

絵画九四点、工芸二〇点の出品により、例年より大作も多く、重厚な中にも、大変見やすい展示になりました。

今回は遠方からの出品者の方、又その方達の友人、知人のご来場も多く、連日、にぎやかな会場となりました。

それは、ポストカード、図録を求めてくださる方の多さにも、あらわれていると思います。



巡回展の成功を期して

会場に来られた人からは、第一声、力のある会だなあとお褒めのことばもいただきました。又車椅子で一点一点熱心にみていただいている女性にお帰りの際、声をかけますと、こんなにいろいろな風景に出会い、日本中を旅した気分になったとの事、こちらも豊かな気分にならせて頂きました。嬉しいことです。

今回会場に来られなかった方も、本展とは違う会場での自分の作品を見られると、何か制作意欲につながることもあるのでは……。

五日間で九〇〇余名のご来場があり、平成最後をかざるに相応しい巡回展であったと思います。